

# 国立能楽堂 企画公演 ◎復興と文化 - 阪神・淡路大震災から30年 - 防災訓練等開催のご案内

兵庫県淡路島北部を震源とする阪神・淡路大震災が発生したのは、平成7（1995）年1月17日（火）午前5時46分のことでした。渋谷区では「渋谷区震災対策総合条例」で毎年1月17日を「防災点検の日」と定め、点検を通した区民の防災意識向上を図っています。

令和7（2025）年1月17日（金）、同震災から30年の節目を迎えます。国立能楽堂では被災地にまつわる作品を取り上げるとともに、災害からの復興と文化との関係性を改めて見つめなおす機会といたく「企画公演 ◎復興と文化 - 阪神・淡路大震災から30年 -」を開催します。

公演の開催にちなみ、公演をご覧になるお客様のみならず、近隣にお住まいの皆様や通勤・通学で千駄ヶ谷においでの方々とともに、改めて災害への備えについて考える機会を設けたく、東京消防庁渋谷消防署並びに渋谷区危機管理対策部防災課とともに、公演当日の国立能楽堂前庭やロビーにて、防災訓練等を開催いたします。屋外での訓練等は企画公演のチケットをお持ちでないお客様にもご参加いただけますので、皆様お誘いあわせの上ご来場くださいますように、お願いいたします。



渋谷区起震車

場所	時間	内容	備考
<b>どなた様もご参加いただける訓練等</b>			
国立能楽堂 前庭	午前10時30分 ～ 午後1時	<b>起震車による 地震体験訓練</b>	※ 雨天中止
		<b>初期消火訓練</b>	※ 雨天時は会場を屋内に変更して開催します
		<b>防災用品販売</b>	※ 雨天時は会場を屋内に変更して開催します
<b>1月17日企画公演のチケットをお持ちのお客様のみご参加いただける訓練等</b>			
国立能楽堂 ロビー広間	午前11時30分 ～ 午後1時	<b>応急手当訓練</b>	※ AEDの実演等
		渋谷区危機管理対策部防災課 東京消防庁渋谷消防署 <b>防災関係PR</b>	※ 東京消防庁マスコット 「キュータ」来場
国立能楽堂 客席・広間・前庭	終演後 (午後4時30分頃 ～ 午後5時頃)	<b>避難訓練</b>	※ 参加ご希望者は終演後 お席に座ってお待ちください

## 国立能楽堂企画公演 ◎復興と文化 - 阪神・淡路大震災から30年 -

令和7年1月17日(金)  
午後1時開演 (午後4時15分終演予定)

講演 金菱 清  
(関西学院大学教授)  
舞囃子「淡路」 上野 雄三 (観世流)  
狂言「舟船」 善竹 隆司 (大蔵流)  
能「芦刈」 上野 朝義 (観世流)

※ 公演詳細は裏面ないし国立能楽堂ホームページにてご確認ください。

※ 防災訓練等のお問い合わせは国立能楽堂営業課  
03-3423-1331 (代) にお願ひします。



**国立能楽堂**

〒151-0051渋谷区千駄ヶ谷4-18-1  
電話：03-3423-1331 (代)  
URL：https://www.ntj.jac.go.jp/nou/

# 国立能楽堂 企画公演

## ◎ 復興と文化 – 阪神・淡路大震災から30年 –

阪神・淡路大震災から30年が経つ令和7年。被災地にまつわる能楽を取り上げるとともに、災害からの復興と文化との関係性を改めて見つめ直す企画です。

### ■ 日時

令和7年1月17日(金) 午後1時開演 (午後4時15分終演予定)

### ■ 演目・主な出演者・あらすじ

講演 **災害と靈性論 一生と死の〈はざま〉** –  
**金菱 清** (関西学院大学教授)

舞囃子 **淡 路 上野 雄三** (観世流)

淡路島を訪れた帝の臣下一行の前に伊弉諾尊(いざなぎのみこと)が現れ、颯爽と祝福の舞を舞い、国の繁栄を約束します。舞囃子は、能一曲の中でシテの所作や舞の見どころとなる部分を抜き出して、面・装束をつけず、地謡と囃子によって舞う上演形式です。

狂言 **舟 船 善竹 隆司** (大蔵流)

西宮に遊山に出かけた主人と太郎冠者。渡し場で舟を呼ぶことになり、主人が「ふね」と言うと、太郎冠者は「ふな」と言うのが正しいと言い、口論になります。どちらも能や古歌を引き合いに出し自らの正しさを主張するのですが...

能 **芦 刈 上野 朝義** (観世流)

家が没落し、心ならずも夫と別れることとなった日下左衛門(くさかのさえもん)の妻が、従者とともに津の国・草香(くさか)の里へとやって来ました。別れてから三年が過ぎ、今は高貴な家で若君の乳母として仕える身となった妻は、行方知れずになった夫を捜すため、しばらくこの地に留まることにします。そこに通りかかった芦売りは、従者に求められるままに芦や土地にまつわる故事を語り、「笠尽くし」の芸を披露します。様子を見ていた妻は、この芦売りこそ夫だと気づきますが、夫は零落した今の自分を恥じて小屋に身を隠してしまいました。妻の説得にやがて心を開いた左衛門は、小屋を出て、烏帽子直垂に着替えると、再会を祝って舞を舞います。そうして、妻とともに都へと上って行くのでした。

あらすじ：氷川まりこ

### ■ 入場料金

正面：6,500円・脇正面：5,000円・中正面：4,200円  
(学生料金) 脇正面：3,500円・中正面：2,900円

### ■ 字幕表示機

国立能楽堂主催公演では各座席に設置のパーソナルタイプの字幕表示機にて、能の詞章(セリフ)等を、日本語と英語でご覧いただけますので、初めての能楽鑑賞のお客様も、安心して楽しみいただけます。

### ■ チケットのお申込み

予約開始：12月10日(火) 午前10時～

〔電話〕国立劇場チケットセンター(午前10時～午後6時) 0570-07-9900 / 03-3230-3000(一部IP電話等)

〔インターネット〕<https://ticket.ntj.jac.go.jp/> (「国立劇場チケットセンター」で検索!)

〔窓口営業日〕12月14日、20日、25日、令和7年1月7日、9日、11日、17日

※国立能楽堂チケット売場窓口・自動発券機は国立能楽堂主催公演日のみの営業(午前10時～午後6時)となります。

※窓口販売用に別枠でのお取り置きはございません。

※インターネットでも学生料金・障害者割引(2割引)による申し込みが可能です。(他の割引との併用不可)。車椅子などの詳細についてはチケットセンターまでお問い合わせください。

※お席に限りがございますので、お早めにお申し込みください。チケット売切の際は、ご容赦ください。

